

海老名市立杉本小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和6年度 第1回)

- 1 日時 令和6年5月8日(水) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立杉本小学校 校長室
- 3 出席委員 瀧澤美穂子委員長、河村治副委員長、藤吉ひとみ委員、鈴木亜矢委員  
及川 普二委員、松永 剛委員、高橋 裕之委員  
学校：小川 百合子(校長)、奥原 豪(教頭)、鈴木 幹央(教務)
- 4 会議の内容
  - (1) 学校長挨拶  
小川校長：令和6年度に入り、今期で校長となって4年となります。杉本小学校の児童は地域の方に日々見守っていただき、支えられながら成長しています。今後も本校の教育活動にご理解、ご協力いただくとともに、学校運営についてご協議いただければと思います。よろしく願いいたします。
  - (2) 委嘱状交付  
4月より新規委員へ委嘱状交付。
  - (3) 委員長、副委員長の選出  
委員長に、瀧澤委員を選出。  
副委員長に、河村委員を選出。
  - (4) 学校より
    - ①令和6年度の学校経営方針について  
小川校長： グランドデザインをもとに今年度の実施計画を作成した。学校教育目標は変えていない、目指す児童像は実態を基に設定している。その中で、「しっかり聞き、自分で判断し、行動する児童」を主たるものとして今年度は設定している。学校運営協議会で考えていきたいこととして、外部講師の確保を考えている。野菜作りは現在お願いしている方が高齢のため、活動が難しい。防災教育に関しては杉本ご近助ネットで実施すると聞いているので、お話を聞いたり、体験教室ができたりできると良いと考えている。まら、昨年度実施した地域の方を講師としたキャリア教育は子どもたちにも好評であったため、引き続き行っていきたい。

- 高橋委員：運営に明確さがあると良い。自治会の活動も同じで、具体的な手立てや方向性を示していく必要があると考えている。学校の中に自治の活動が入っていくと良い。
- 小川校長：学校はカリキュラムの中で活動を行っていきたいと考えている。どのように自治の活動を入れていけるか考えていきたい。
- 河村委員：学校教育目標が長らく変わっていないのは普遍的なものと感じる。具体的な手立てや活動は各推進部が担っていると考える。推進部の計画について考えていければよい。
- 高橋委員：学校教育目標を理念と捉えたと、変化しないでもよいと思う。目指す児童像を教育目標への通過点として考え、ブラッシュアップしていくと良い。
- 松永委員：学校教育目標の「よく考えて実行する子」は40年前の理不尽さがある時代から現在への変化を考えても大切なことだと感じる。そのような力をどのように育てていくのかが知りたい。
- 小川校長：日々の生活や授業において、指導、価値づけることで成功体験を重ねていく。
- 瀧澤委員長：インクルーシブ教育の推進について聞きたい。
- 小川校長：たて割り活動や交流授業を中心に考えている。教員が意識して、指導、活動に取り組んでいる。
- 瀧澤委員長：教員間の意識は共通理解が図れているか。
- 小川校長：方向性は示しているが、個々の生活体験や経験により感じ方に差異がある。それらを共有していくことが必要であると考えている。
- 鈴木教務：支援教育推進部で毎月情報交換、共有を行っている。それらを基にできると良いと考えている。
- 松永委員：保護者の中には、今までと同じ体制で授業を行っている方が良いとの声を聴く。無理に変化をつけない方が良いと思っている人もいる。
- 小川校長：集団の意識の成長を考えている。そのためにも交流や配慮が必要であると考えている。
- 瀧澤委員長：1年生など低学年には理解が難しいのではないだろうか。教員が児童に上手く伝えることが大切だと思う。
- 河村委員：それぞれの意見を聞く場面、指示に従う場面がある。賛同、批判それぞれの使い道、場面の選定が大事だと思う。
- 小川校長：意見を参考に、少しずつ取り組んでいくようにする。

## ②年間行事について

- 鈴木教務：昨年度同様に計画を立てている。今年度、体育館の空調工事が2学期より始まるため、雨天時のふれあい広場等の開催場所について考える必要がある。

及川委員：体育の学習など、カリキュラムに変更はあるのか。

鈴木教務：室内での単元は1学期に集中させている。そのため、1学期は体育館の使用頻度が高くなっている。

### ③学校予算について

奥原教頭：今年度よりひびきあう教育実践推進事業が「特色ある学校づくり実践事業」に名前が変わった。また、それぞれの事業については年間の計画に基づいた予算の運用が必要となっている。昨年度承認いただいた事業6つのうち、4つを実践することとなった。

松永委員：農業体験事業が2年生と5年生のみだが、ほかの学年での実践は考えているか。

奥原教頭：各学年、地域の特色を生かした活動を計画しており、特別予算が必要な学年が2年生、5年生となっている。3年生では地域学習として温故館の訪問や4年生の目久尻川の環境を考える学習、6年生の地域の方を招いてのキャリア教育などを実施している。

高橋委員：杉本小学校は地域の特色を生かしやすい環境であると思う。地域の財を有効に活用してもらいたい。

奥原教頭：目久尻川や公園、田んぼ等、学校を出てすぐに活用できる場があるのは非常にありがたい。移動に費やす時間が多くなってしまうとそれだけで活動の維持が難しくなってしまう。今後もそれらの環境に感謝し、活動を続けていきたい。

奥原教頭：今年度より教材整備事業が始まり、保護者の教材費負担がなくなる。限度額がそれぞれ設定されており、学校側としては、年度当初に教材の計画を立てる必要がある。また、現金での支払いができなくなり、請求書が必要となり、銀行振り込みのできる店舗からしか購入できなくなった。

河村委員：保護者にとっては教材費の負担がなくなるのはありがたいことだと思うが、学校側のメリット、デメリットはあるのか。

奥原教頭：引落不可等により支払いが滞ることがなく、年度当初は大変だが、そのあとは教材選考に時間を割かなくてよい。デメリットとしては限度額内で収まらない場合がある。また、調理実習などの食材も同様に購入しなくてはいけないため、購入できる店舗に限られる、不足分を急遽購入できない等がある。

鈴木委員：特色あるや教材費等、制限がつくことが多いように感じるが市として教育にかけるお金は少なくなってきたのか。

奥原教頭：市としては教育には多くの予算をかけている。金額が多くなる分、その扱いが難しくなっており、今までのお金の管理から新しい管理方法へ移行しているため、計画、運用、報告が厳しくなっている。今後も予算をつけていくためには必要なことだと受け止めている。

## (5) その他 意見・情報交換

松永委員：PTAの告知文書を、今後LINEを用いた配信で行っていかうと考えている。

また、子育て交流会を青健連のクリスマス会と一緒に開催する。

鈴木委員：LINEに抵抗のある保護者もいるので難しくはないか。

松永委員：LINEが不可の方には紙媒体で配布する。今年度自ら印刷を行ったが大変な作業であったため、その負担を軽減したい。かかる費用は紙媒体よりも安価となり、効率もあがる。

河村委員：効率だけでなく、面と向かって行う活動も必要ではないか。

鈴木委員：ZOOMを用いたPTAの会議を行ったが、集合時間や場所の設定がなく気軽に行えて良かった。その反面、対面していないため、お互いのことを知る機会が少なく、その後の人材確保に苦労した。

瀧澤委員：LINEもツールとして活用していくのは良いと思う。会議と並行して活用できれば良い。

高橋委員：ご近所ネットでもLINEを用いて連絡している。ツールとしての活用し、活動のやりがいや楽しさを伝えられると良い。

松永委員：LINEの活用で話を進めていく。

## (6) 連絡事項

### ①お知らせ

令和6年度生涯学習指導者研修

令和6年度コミュニティスクール研修講座兼中学校区学校運営協議会

次回の、学校運営協議会は、令和6年9月19日（木）10:00から開催予定。